

第2回 北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会 記録
検討委員の発言の概要

(2) 報告

「第1回 北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会」の記録について
質問や意見は特になし

(3) 協議

検討テーマ1「どのような人材育成が望ましいか」

委員の発言の概要

1点目としては、学習指導要領の思考力・表現力・判断力というもの、いわゆる「考える力」が必要であると思う。

2点目としては、コミュニケーション能力。自分の考えを相手にわかりやすいように伝えるということや、人と関わり合うということが不足している。

3点目としては情報活用能力。今は、インターネットなど様々なものが入ってきているが、それをうまく選択して活用する力がこれから特に必要ではないかと思う。

今求められる資質や能力について焦点を絞っていけば、変化の時代とその社会を「生きる力」、変化の時代とその社会で「共生できる力」ということになると思う。

「生きる力」や「共生できる力」の中身は4つの要素に整理・分類できると思う。第1は想像力や思考力。第2は創造力や表現力。第3として意欲と実行力。第4として関係性、かかわりに対する積極姿勢。こういったことが、変化の時代、変化の社会に「生きる力」、「共生できる力」になるのではないかと思っている。

知育・徳育・体育が教育の三本柱であるが、まず、思いやりの心、相手に対する気配り、そして徳育が、忘れられているような気がしてならない。

企業の中でも企業倫理を確立するための倫理会というものを設けたり、道徳科学研究所などをしなければならなくなっている。

徳育こそ人間社会の中でお互いに気遣いながら生きていく大事な要素であって、その徳育に力をいれて、しっかり身につけた人間を育てないと、社会に出たときに困るのではないかと感じている。

自己表現がやや弱いと思っている。しかし、全員が同じように自己表現ができる、得意にさせようということではなく、様々な子どもがいるということ、まず、親や地域が考えなければならないし、子どもたちにも理解してもらいたいと思っている。

いじめなどが話題になっているが、北村山地区ではそういうようなものは増えておらず、子ども同士の中である程度の互いを感じ合うというようなことができ

ているのではないかと考えている。そういう子どもたちを地域の中でどう育てていくのか、たとえば全国レベルに育てていくのか、それとも地域に合ったように育てていくのか、などについて考えなければならない。

また、地域に育てられた子どもたちは、今は感じないかもしれないが、大人になったときにやはり地元はよかったというような気持ちで考えられるように育てていきたいとも思っている。

地元の工業団地に地域の高校からたくさんの生徒が就職しているが、3年以内に半分以上が辞めて、非常に定着率が悪いということを聞いている。3年ぐらいたつてやっと一人前になったところで辞めてしまう。もう少し我慢強い、辛抱強い子どもたちが欲しいということである。働くことの意義、望まれる社会人像、そういうことを高校時代からきちんと教えていかなければならないと思う。

そういう意味で、地域にはたくさんの優秀な企業があるので、そこから来ていただいて講師として教えていただくとか、様々な交流ができれば地元の高校にとってもいいのではないかと。

子どもを見ると耐える力が非常にないと思う。また、コンピューターやゲームで、豊かな心、情操、しっかりとした人間らしさというものが少しずつ欠けてきているのではないかと感じている。

本地区の4市町の産業という視点で見れば、東根・村山には工業地域がある。また、この地域には果樹というものもある。そういう地域の産業に興味・関心を持つ人材がほしいと感じている。専門性で地域をリードしていくような人材が育成できれば北村山地区がより発展できると思う。

やはり問題解決能力が非常に劣っていると感じた。生きていく上で障害やトラブルに必ずぶつかるわけで、それを乗り越えようとしなさい。そこでストップしたり逃げてしまったりする子どもが少し増えてきていると思っている。

北村山地区から山形方面に進学する生徒が多く、逆は少ないという話があったが、進学しない理由を考えていかなければならない。山形地区の定員を減らすと自然に北村山に来るという発想はあるかも知れないが、北村山の高校に魅力がなければ、いくら入れない生徒がいてもこちらには進学しない。それぞれの学校が特色や魅力を持たなければならぬと思う。

この北村山地区は3世代で協力しながら生きていく地域である。その中で、今、福祉関係が非常に人手不足であるという。この地区にも福祉の勉強をするような学科を設けると、北村山に行こうというようになるので、そういう学科を増やしていくことも1つの手立てではないかと思う。

一番感じるのは、積極性の足りなさである。また、高校で生徒の時には、すご

くいいあいさつをするが、会社に入ってくると、言わなくなる。毎朝言っても大きな声であいさつができないという人がいる。これは先程も話があったように、道徳教育ということに少し関連するのかなと思うが、人間としての基本的な生き方をきちんと教育した上で、専門的なことを身につけさせてもらいたいと思う。

優秀な工業団地もあるし、果樹王国でもあるということ、そういった分野に対する優秀な人材を育成していくというのはもちろん大事。先にあったような福祉関係なども必要と思う。ただ、山形からこちらに来るような特色があることも必要ではないか。ここには、全国に名だたる銀山温泉やそばもある。そういった特色を生かして活性化するような人材を輩出できるよう、学科・セクションなどを設けていくことも必要ではないかと思う。

また普通科をどうしていくのかということもあるので、普通科の充実も基本的な課題としては十分検討していかなければならないと思っている。

人から指示されたことだけをする、そういう人材が社会に送り出されているということに愕然とした。少子化で周囲が干渉しすぎ、子どもたちでその事態を解決しようとする力を育てていない。周りで助けてくれるから、自分は何もしなくても何とか生き抜けるということをも身につけているのではないか。高校生がインターンシップで来るが、それも全く同じ状況である。実際の生活力がつかないままに、社会に送り出されている。

北村山地域では工業団地などがあり、即戦力の社会人が求められていると思う。しかし、3年経過したら半数が辞めていくのは、少し辛いことがあると辞めればいいとなってしまっていると思うので、そこをきちんと教育して、世に送り出さなければならぬと思う。

高校教育が義務教育のようになってきている中で、高校を卒業した段階では90%ぐらい人格ができている生徒を世に送り出す教育が求められているのではないか。

ここにパンフレットをもらっている。高等学校を見ると、虫めがねがないと見えないような書き方である。高等学校はその地区の最高学府になるし、人数やお金はかなりのまとまったものになっている。これは観光マップだけれども、町や市がもっと大きく取り上げるくらいの熱の入れ方がほしいと思う。大勢の人たちがいる学校ということをもパンフレットの中で、たとえ観光であってもPRを兼ねて大きく取り上げたらいいのではないかと思う。

以上